

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 三重県立松阪商業高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		生徒・教職員が「誇り」をもち、保護者・地域から「信頼」される学校
(2)	育みたい 児童生徒像	自己指導能力（そのとき、その場で、どのような行動が適切であるか、自分で判断し、決定して実行する能力）を持った生徒
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 生徒が主体的・対話的に学ぶ授業を目指した改善を進め、進路希望実現のための学力保障ができる教職員</li> <li>* 共通認識を基盤として個々の特性を活かした連携が図れ、生徒に寄り添ったきめ細かい指導ができる教職員</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>&lt;生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 安全安心に過ごせる充実した学校生活と進路希望の実現を望んでいる。</li> </ul> <p>&lt;保護者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 生徒が安全安心な学校生活を送るとともに、進路希望の実現を期待している。</li> </ul> <p>&lt;地域&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 生徒の公共心とマナーが育成され、専門学科としての専門性や特色を生かして地域の活性化に貢献してほしいと期待している。</li> </ul>	
		連携する相手からの要望・期待
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>&lt;家庭&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 安全安心な教育環境と心身共に健康な生徒の育成</li> <li>* 進路希望を実現するための支援</li> <li>* 学校教育活動等の迅速な情報提供</li> </ul> <p>&lt;中学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 学力面、生徒指導面での中高の連携</li> <li>* 外国人生徒の指導のための一層の連携</li> </ul> <p>&lt;地域社会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 関係機関、事業所との連携・協力の推進</li> <li>* 挨拶・身だしなみ等の指導</li> <li>* 学校教育活動等の情報発信</li> </ul>	<p>&lt;家庭&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 学校の教育方針に対する理解と協力、家庭での基本的な生活習慣の教育</li> </ul> <p>&lt;中学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 基礎学力の向上、継続的な指導のための個々の生徒の情報共有</li> </ul> <p>&lt;地域社会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 本校の専門性や特色を理解したうえでの生徒の活躍の場の提供</li> </ul>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業アンケートの実施率が上がっており、授業改善に活かすという目的が浸透していると思われる。結果をどのように活用するかが今後の課題である。</li> <li>・ 時代が変わっていく中で、スピード感をもって学校としても対応していく必要がある。</li> <li>・ コロナ禍で子供同士の関わりが薄れているが、子供自身に考えさせたり、ソーシャルスキルを向上させたりすることが必要である。</li> <li>・ 授業で学んだことが、社会でどのように活用できるかを子供に理解させる必要がある。</li> </ul>	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 単位制高校としての利点を生かし、少人数や習熟度講座を編成し、学習者へのきめ細かな指導を行い、希望進路の実現を図っている。</li> <li>* 生徒が主体的に学ぶことが出来る授業の構築を目指して、授業研究や授業改善の取組を推進することが求められる。</li> <li>* 基礎学力の定着・向上に向けて、生徒自身が自ら学習する習慣を身につけさせる仕掛けを考えていく必要がある。</li> <li>* 「三重県いじめ防止条例」に基づき、いじめの防止及び早期発見に努め、生徒が望ましい人権意識をもち、安全安心な学校生活を送ることができるように取り組む必要がある。</li> <li>* 学習活動や部活動、挨拶を始めとする礼儀や身なりなど、地域から一定の評価が得られており、引き続き基本的な生活習慣や社会性を身につけさせる取組を進める必要がある。</li> <li>* グローバル教育を推進するため、国際交流の機会を拡充する必要がある。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 伝統ある地域の商業高校として、地元産業界等と強いネットワークで結ばれている。この資産を活かしつつ、コロナ禍の中における地域連携や地域交流の方法を検討していく。</li> <li>* 商業教育の拠点校として、高い専門性を有した教職員が配置され、スペシャリストを育成するノウハウを備えている。</li> <li>* 募集定数の確保が難しい状況が続くが、新学科のスタートに併せて、より特色を出せる内容を検討し、新たな松阪商業高等学校の魅力発信していく。</li> <li>* 新型コロナウイルス感染症拡大防止の目的で縮小や中止となった学校行事のあり方について検討を進める。</li> <li>* 教職員の負担が増え続ける中、働き方改革を見据えた業務改善や精選が急がれる。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 生徒の「自己指導能力」の向上を図る。</li> <li>* 高校生としての学力保障を進め、自己実現に向けた生徒自身による進路決定意識を養う。</li> <li>* 生徒が主体的・対話的に学ぶ授業を目指し、授業アンケート結果や一人一台端末を活用した授業改善を推進する。</li> <li>* 学校の魅力化・特色化の一環として高度な資格取得を進め、資格を活かせる進路指導を行う。</li> <li>* 「命の尊さ」や「いじめ防止」を様々な機会や方法を用いて繰り返して伝えていく。</li> <li>* グローバル教育推進のための国際交流の充実を図る。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 外部関係機関との連携による教育活動展開を進め、生徒が校外で学ぶ場を創出していく。</li> <li>* 生徒の活躍の様子を、様々な方法で広く発信することに努める。</li> <li>* 感染症予防に向けた措置を講じつつ、臨機応変に年間計画の見直しを図る。</li> <li>* 「学校信頼向上委員会」を中心に、不祥事根絶に向け「信頼される学校であるための行動計画(松阪商業高校)」に基づいた取り組みを推進する。</li> <li>* 学校安全衛生委員会において働き方改革の推進を図り、過重労働時間の削減を進める。</li> </ul>

#### 4 本年度の行動計画と評価

##### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<b>規律ある行動の徹底</b>	・儀式、集会を通して集団の一員としての自覚を深めさせ、迅速な整列・行動を周知徹底させる。	・コロナ禍においても儀式・集会の実施が回復し、迅速な整列・行動の周知徹底が図れた	
<b>防災訓練の実施</b>	・防災訓練を通じて、集団行動の重要性を認識させ、危機管理や防災についての意識の高揚を図る。	・担任の指導により防災に対する意識の高揚を図ることが出来た。職員への備蓄物の共有も実施した。	
<b>保護者アンケートの実施</b>	・2学期末に保護者対象アンケートを実施し、分析・考察を行い、本校教育活動に活かす。	・235名(52%)の保護者から回答があった。きずなネット等の配信により、昨年度より回答率が25ポイント上昇した。	
<b>国際交流についての考察</b>	・新北市立三重高級商工職業高校との交流事業をどのような形で行うのが円滑かつ効果的であるか考察する。	・新学科において国際ビジネス科委員会が立ち上がり、委員会において感染症対策・国際情勢を勘案しながら検討を継続する。	
<b>ICT化の推進</b>	・学習端末の導入にともなう環境整備を進める。	・授業支援ツール(ロイロノート)の無償実証、職員対象の校内研修を実施した。	
<b>家庭学習習慣の定着</b>	(1)学習時間調査の実施 【目標】 家庭学習の大切さを意識づけ学習習慣の定着を図る。 【取組内容】 1学期・2学期それぞれで面談週間を設ける。面談を通して生徒の生活時間を診断し、生徒自身が生活時間を振り返ることで、学習時間の確保につなげられるようにする。 【活動指標】 担任による、年間2回以上の個別面談の実施率100%。 【成果指標】 家庭学習時間が1日あたり1時間以上の生徒の割合を、70%以上にする。	(1)年間2回以上の個別面談の実施率100%  1日当たりの家庭学習時間が1時間以上となる生徒の割合は、6月実施時44%、10月実施時31%であった。	

<p><b>授業アンケートの実施</b></p>	<p>(2)授業アンケートの実施</p> <p><b>【目標】</b> 生徒に「授業アンケート」を実施して、授業のさらなる改善に活用する。アンケートは ICT を活用する。</p> <p><b>【活動指標】</b> 授業アンケート実施率 100%を目標とする。</p> <p><b>【成果目標】</b> 「授業の理解度」の肯定意見を 80%以上、「質問ができる雰囲気」の肯定意見を 80%以上にする。</p>	<p>(2)授業アンケートの実施率は 88%であった。 (昨年度 95%) 授業の理解度は 86%の肯定的意見であった。 (昨年度は 83%) 質問ができる雰囲気は 98%であった。(昨年度 89%) [2月15日時点]</p>	
<p><b>将来の進路への意識の向上</b></p>	<p>外部講師等を活用した進路講話・ガイダンスを実施する。また、「進路ノート」を頭髮服装指導の待機時間で活用し、キャリア・サポートを継続的に行う。</p>	<p>1・2年生とも各学期に進路ガイダンスを実施した。企業や上級学校の担当者から直接ガイダンスを受けることによって、進路意識の向上を図った。 また、1・2年生とも「進路ノート」を毎月の頭髮服装指導と並行して実施できた。</p>	
<p><b>(1・2年生) 生徒指導の充実</b></p>	<p>丁寧な頭髮服装指導や全校集会・学年集会の実施や、登校・下校・校外指導を実施により、自発的な「見た目」向上とマナーの向上の意識付けを図る。</p> <p><b>【活動指標】</b> 頭髮服装指導日までに十分な準備のできる生徒や、日ごろから社会的マナーを心がける生徒を増やすため、啓発に力を入れる(講話・通信等)。</p>	<p>頭髮服装指導の日に向け、準備ができる生徒がほとんどである。準備ができない生徒等に向け、全体指導・個別指導を行った。</p>	
<p><b>生徒会活動の充実</b></p>	<p>(1)生徒主体で感染予防を行いながらコロナ禍以前に近い生徒会行事・企画を運営していく。 (2)クラブ活動の活性化に取り組む。</p> <p><b>【活動指標】</b> (1)生徒が主体で各行事(体育祭・文化祭・クラスマッチ・壮行会等)を運営し、すべての生徒が楽しんで思い出に残るような行事を計画・実行していく。 (2)生徒会冊子「松籟」で活動報告成績等の紹介を行う。</p>	<p>(1)コロナ禍以前に近い形で生徒会活動や生徒会行事を運営することができた。 (2)各クラブの活発な活動により、東海大会・全国大会に出場に向けて、壮行会を行う機会を多くもつことで、学校全体の活性化につながった。</p> <p><b>【活動指標】</b> (1)生徒主体で対面式、体育祭とクラスマッチでの新種目を計画、実行し、文化祭での食品バザーや舞台発表、野球応援など生徒が積</p>	

<p><b>保健指導の充実</b></p>	<p><b>【成果指標】</b>  (1) アンケート等を活用し、修正等を行う。</p> <p>(1) 新しい生活様式を理解・実践し、疾病・感染症の予防に努めさせる。  (2)心の自己管理能力を高めさせ、望ましい人間関係を維持させる。  (3)男女の特性や多様化する性への理解を深めさせる。  (4)学校生活を安全に健康に過ごせるよう環境美化に取り組む。</p>	<p>極的に取り組むことができた。いじめ防止ポスターを作成し、啓発運動を行った。  (2)生徒会冊子「松籟 59号」を発行できた。</p> <p><b>【成果指標】</b>  (1)アンケート集約を行ない、生徒の意見を反映し、活動を行なった。</p> <p>(1)新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、GoogleClassroom による入力フォームを作成して、毎日の検温や体調チェックを習慣づけ、体調管理を継続して行うよう指導した。  感染予防対策については保健だより等を通して、繰り返し生徒に情報提供を行い、感染リスクを抑える行動をとることの大切さを伝えた。  保健委員会による保健だよりの発行や文化祭での企画展示による、保健(主に感染症予防)関連の情報の発信をすることができた。  (3)心身の発達に合わせた性に関する講演を行い、正しい理解を深めることができた。  (4)疾病・感染症の予防のため、手指消毒が常時できるよう、環境を整えるよう努力した。</p>	
<p><b>人権教育の推進</b></p>	<p>人権教育推進計画に基づき、HR活動や教科学習、講演会などをおして人権尊重の精神を培い、周囲にある課題に気づき人権意識を持って自ら自立した行動のできる生徒を育成する。</p> <p><b>【活動指標】</b>  「人権室だより(通信)」の発行等により、フィードバックの機会を設け、人権学習の定着を図る。</p>	<p><b>【活動指標】</b>  「人権室だより(通信)」の発行により、フィードバックおよび事前・事後学習の機会を設け、人権学習の定着を図った。</p>	

<p><b>図書館利用教育</b></p>	<p>【成果指標】 通信の発行年間5回。</p> <p>(1) 学校図書館の利用の意義を理解し、またマナーの習得等、生涯教育の場となる公共図書館等の利用につながるような基礎的知識の習得を目指す。</p> <p>(2) クラス生徒への働きかけのきっかけとなるように、図書委員会活動を活性化させ、親しみやすい学校図書館を目指す。</p> <p>【活動指標】 (1) マナー指導や図書委員会による「図書館通信」の発行、ショーウインドウ展示等を行う。</p> <p>【成果指標】 (1) 図書館利用にあたってのマナー指導(随時)を行う。 (2) 図書委員会による「図書館通信」を発行(年5回程度)する。</p>	<p>【成果指標】 通信発行年間5回</p> <p>(1) 図書館利用の意義・マナーは、1学年に対し、図書館オリエンテーションを実施。</p> <p>(2) 図書委員会活動は、カウンター当番、「図書館通信」の発行、ショーウインドウ展示、校内ビブリオバトル、文化祭企画などを実施。</p>	
<p><b>キャリア教育</b> (商業科共通)</p>	<p>商業に係る知識・技術を涵養し、地域やビジネス社会で活用できる実践力を身につけさせるために、企業、外部一般団体、専門学校との連携を深めた商業教育を展開する。そのために、地域に開かれた商業高校を目指し、地域社会やビジネス社会の現状や要望を反映させた商業教育を展開する。</p> <p>【活動指標】 一般社団法人「未来の大人応援プロジェクト」が主催するSBP、産業DX人材育成に係わる事業、多気町VISONとの連携、ビジネスプランコンテスト等に参加し、企業や地域連携を軸とした商業教育を展開する。</p> <p>【成果指標】 実施回数は昨年度並みを目指す。担当者と取り扱う商業科目を昨年度より増やす。</p>	<p>活動指標に示すいずれの取組も実施することができた。実施回数についても、今年度、多気町VISONとの連携授業を始めたことから、昨年度以上に展開することができた。</p>	
<p><b>教育課程・学習指導</b> (商業科共通)</p>	<p>学習した知識を生かすため外部教育力を導入するなど生徒のスキルアップに努める。ビジネスに関する基礎的、基本的な知識と技術の定着をはかり、幅広い科目で上位級合格を目指す。</p> <p>【活動指標】 高専連携や外部講師を活用した授業を推進する。全商検定合格者数の増加を目指すだけでなく、公的・民間主催の検定の受験を積極的に行う。</p> <p>【成果指標】 (1) 外部講師による講義を各学年または商業系クラブ活動で取り入れ、年3回以上行う。また、起業やビジネスに係る講演会・ワークショップを年1回以上行う。 (2) 商業系の各種検定試験の合格者について、旧学科(情報ビジネス科・情報システム科)、新学科(総合ビジネス科・国際ビジネス科)ともに昨年度の学年比を上回ることを目指</p>	<p>活動指標について、昨年度を上回る結果を得ることができた。1年次簿記においては、先生方の熱心な教育活動により日商簿記受験者が増加し、1年次生徒の大半が受験した。また、簿記上級においても、高専連携協定を最大限活用し、日商簿記2級以上の検定対策指導を展開することができた。</p> <p>成果指標にある(1)は達成した。(2)については、情報系上級国家資格(レベル2</p>	

<p><b>教育課程・学習指導</b> (総合ビジネス科)</p>	<p>す。</p> <p>1年次の基礎基本の指導を大切に、ビジネスに関する基礎的、基本的な知識と技術の定着をはかる。</p> <p><b>【活動指標】</b> 生徒の興味・関心を持たせることを目指した授業を展開するために、Chromebook やプロジェクトなど ICT 機器を活用した授業を推進する。</p> <p><b>【成果指標】</b> (1) 1年次に展開するすべての商業科目において、Chromebook または Google Classroom を活用した授業を展開する。 (2) 1年次に受験予定の全商検定合格率70%以上を目指す。 (3) 1年次商業科目において、Chromebook など生徒一人1台端末で活用できるデジタルコンテンツを研究し、近い将来に活用できるよう努める。</p>	<p>以上)合格者が10名となり、三重県最多となる成果を上げることができた。</p> <p>活動指標に基づく成果指標について、(1)、(2)を達成することができた。 (3)については、ビジネス基礎、情報処理、簿記ともに取組を進めている。今後も継続して教材研究を進める。</p>	
<p><b>教育課程・学習指導</b> (国際ビジネス科)</p>	<p>1年次の基礎基本の指導を大切に、ビジネスに関する基礎的、基本的な知識と技術の定着をはかる。商業に係る全商検定だけでなく、全商英語検定2級や実用英語技能検定準2級以上の取得を目指す。</p> <p><b>【活動指標】</b> 生徒の興味・関心を持たせることを目指した授業を展開するために、Chromebook やプロジェクトなど ICT 機器を活用した授業を推進する。</p> <p><b>【成果指標】</b> (1) 1年次に展開するすべての商業科目において、Chromebook または Google classroom を活用した授業を展開する。 (2) 1年次商業科目において、Chromebook など生徒一人1台端末で活用できるデジタルコンテンツを研究し、近い将来に活用できるよう努める。 (3) 外国人生徒に対応するための教材にルビを付けるなど、ユニバーサルデザインの授業作りの考えに基づいた授業作りに努める。 (4) 1年次に受験予定の全商・商業系検定の合格率70%以上を目指す。また、実用英語技能検定準2級5名、2級7名、準1級2名(現状3級5名、準2級7名、2級2名)以上、全商英語検定2級合格者15名以上を目指す。 (5) 国際教養科が取り組んでいる英語関連行事をできる限り踏襲する。</p> <p>姉妹校提携している「台湾 新北市立三重高級商工職業高校」と</p>	<p>活動指標に基づく成果指標について、(1)～(5)は達成できた。しかし、(6)については、先方の事情で連絡が取りづらいため、実施できていない。引き続きオンライン交流ができるよう先方に働きかけたい。</p>	

<p><b>キャリア教育</b> (国際教養科)</p>	<p>のオンラインによる交流事業を模索する。</p> <p>(1) 生徒全員による「GTEC」検定高スコアや実用英語技能検定の取得を目指す。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(1) の取組を達成するために、授業等で英語の4技能5領域の育成を目指した授業を展開する。さらに、8月に2年生を対象に「GTEC」検定を実施する。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>実用英語技能検定取・・・2級40%、準2級100%(卒業時) 「GTEC」検定・・・スコア690以上取得100%(2年次)</p> <p>(2) 小学校との連携を図ることで地域との結びつきを深めるとともに、生徒のコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(2) 小学校での英語活動を実施する。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(2) 生徒アンケート「異なる年齢の人達とのコミュニケーションがとれた。」「小学生に英語を学ぶことの楽しさを伝えることができた。」「・・・肯定的意見80%以上</p>	<p>(1) 実用英語技能検定【3年生 2級10名31%、準2級以上20名62%】</p> <p>「GTEC」690以上のスコア取得者【2年生受検者38名:取得者31名81.6%】</p> <p>※「%」は全て、各学年学科生徒数全体に対しての2月現在の割合。</p> <p>(2) ・生徒意見・・・肯定的意見 100%【授業後振り返りより・・・異なる年齢の人達とのコミュニケーションのとり方が学べた。/小学生に英語を学ぶことの楽しさを伝えることができた。→「できた・少しできた」と回答した生徒は100%】</p> <p>※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今年度も交流活動はオンライン(Zoom)で実施。</p>	
<p><b>教育課程・学習指導</b> <b>キャリア教育</b> (情報システム科)</p>	<p>情報技術に関する基礎的、基本的な知識と技術の定着をはかり、高度な資格試験合格を目指す。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>2年生情報システム科の授業内で、経産省ITパスポート試験合格を目指した授業を展開する。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>経産省ITパスポート試験合格者数10名を目指す</p>	<p>個々の生徒の学習進度に応じた授業展開ができた。</p> <p>国家試験合格者数 ITパスポート試験12名(2,3月に受検予定の6名を除く)</p> <p>基本情報技術者試験9名 応用情報技術者試験1名 情報セキュリティマネジメント試験1名</p>	
<p>「教育課程・学習指導」 「生徒指導」</p>	<p>各科で取得可能な検定試験の動機付けを行い、受検を促す。また、それを活かした進路指導に取り組む。</p> <p>規範意識の醸成とルール、マナー遵守の意識を徹底し、地域から信頼される生徒の育成に努める。</p>	<p>おおむね取組内容については、実践して成果をあげることができた。次年度につなげていきたい。</p>	
<p>改善課題</p>			

【総務】保護者アンケートについて、各項目に変化はあったが、肯定・否定意見の割合の変化はわずかであった。ただし、設問『子どもは明るく安心な学校生活を送っている』に対しての肯定的意見は86.8%となり昨年度から6.4ポイント減（否定的意見は3.8%→9.8%と増加）だった。「明るく安心な学校生活」でない要因については自由記述欄から読み取れるものがないため、検討を要する。また、災害時備蓄品の数量・場所について教員への周知をおこなったものの、生徒や保護者については情報が行き届いておらず、発電機や簡易トイレはあっても生徒一人あたりの物品は水と毛布のみであることも課題である。

【国際教養】卒業時に実用英語検定準2級以上取得100%（今年度31%）を目指し、受験案内・対策講座の案内だけでなく、資格取得者の把握や受験指導を学科代表や授業担当者で行う必要がある。

効果的に英語の4技能5領域の育成することを目指し、ALT及び教科間での連携やICTの活用を進めていく必要がある。

【図書】これまでの取り組みは、今後も必要であるので継続して取り組みたい。内容については、その都度検討しながら、より有効な内容を考えて進めていく。

## (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<b>働きやすい職場環境づくり</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や既存の取組の精選を進める。</li> <li>・定時退校日に退校できた職員の割合を90%以上にする。</li> <li>・部活動休養日を週1日設定し、休養日取得率を100%にする。</li> <li>・放課後開催・60分以内終了の会議の割合を80%以上にする。</li> <li>・年360hを超える時間外労働者数を0人にする。</li> <li>・月45hを超える時間外労働者数を0人にする。</li> <li>・一人当たりの年間休暇取得日数を10日以上にする。</li> <li>・一人当たりの月平均時間外労働を30時間以内にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ後のことも想定しながら、行事等の必要性の見直しを継続していく。</li> <li>・91%で目標達成</li> <li>・68%で未達成。引き続き休養日の取得を促す。</li> <li>・50%で未達成。会議の進め方を検討していく。</li> <li>・11人で未達成。引き続き時間外労働の削減を呼びかける。</li> <li>・月平均8.6人で未達成。引き続き時間外労働の削減を呼びかける。</li> <li>14.7日で目標達成</li> <li>26.5時間で目標達成</li> </ul>	
<b>不祥事根絶</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校信頼向上委員会を中心に、コンプライアンスミーティングを実施し事例に学ぶ。</li> <li>・職員会議ごとに時期に応じた注意喚起を行う。</li> </ul>	<p>学校信頼向上委員会の話し合いで、不祥事の原因の一つにストレスがあるのではないかということになり、教員の間でのコミュニケーション不足が、そのこと</p>	

<p><b>総務業務のスマート化</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務分担を明確化し、スケジュール化、ICT 化を進める。</li> <li>・分掌、教科、事務と連携を図り、共通理解のもと、円滑な教育活動の推進に努める。</li> <li>・PTA 総会、役員会、VIVA 松商等を通じて、PTA との連携を進める。</li> </ul>	<p>に影響を与えていると考えた。このことから、教員間で話し合いができるように分掌ごとに日頃の業務についてのそれぞれの受け止め方の違いに気づく話し合いを行った。</p> <p>また、職員会議ごとにその時に応じた注意喚起を行った。</p> <p>公開授業や保護者アンケート、遅刻欠席連絡などをフォームから送信可能にしたことで業務の効率化が進んだ。</p> <p>・PTA総会については書面決議となったが、本部役員会やVIVA松商を実開催することができ、事務室、体育科、生徒会との課題共有により、屋外テントの整備などをすすめることができた。</p>	
<p><b>学校教育活動の広報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンスクール、学校説明会、授業公開を実施する。</li> <li>・学校紹介パンフレットを作成し、中学生に対して本校の教育活動、部活動、進路等について情報を提供する。</li> <li>・学校 web の更新を積極的に行い、広報活動の充実を図る。</li> <li>・モバイル端末配信システムにより緊急連絡体制を整備し、本校教育活動の広報に活用する。</li> </ul>	<p>・授業公開については、5月は本校保護者50名、10月は保護者13名、中学校保護者14名の申し込みがあった。</p> <p>・学校 web について、運営当初から望まれていた教員誰もが更新できる環境となり、クラブを中心に更新が活性化した。</p> <p>・きずなネットによる情報の配信をこまめに行い、Google フォームやストリームを併用することで、台風や降雪時の連絡系統が円滑になった。</p>	

<b>授業改善の取組</b>	<p>授業ノウハウの共有</p> <p><b>【目標】</b> 教員が授業の工夫や授業改善を公開、その工夫や改善方法を共有する。</p> <p><b>【取組内容】</b></p> <p>① 年度当初に全教員が授業改善設定シートを作成してデータを共有する。</p> <p>② 年度末に、生徒対象の授業アンケートの結果も活用して成果をまとめ、次年度の自身の授業改善につなげる。またその成果を全体で共有する。</p> <p><b>【成果指標】</b> 「一人一台端末を活用した授業改善( ICT を活用した授業改善を含む)」に関する取組みや研究を行った教員の割合が 90%以上</p>	<p>すべての教員が授業改善シートを作成し改善の工夫を図った。</p> <p>「一人一台端末を活用した授業改善( ICT を活用した授業改善を含む)」に関する取組みや研究を行った教員の割合…98%</p> <p>①1年生の授業で一人一台端末を活用することについて、特に 1.ロイノート、2.classroom、3.フォーム、4.動画配信、5.パワーポイント、を授業の中で効果的に使用することで、生徒が興味関心を強く持ち、理解度が上がったことが実感できた。</p> <p>②コロナ禍で出席停止となった生徒や、くり返し講義を聴きたい生徒にとって、授業動画や問題解説動画は大変有効であった。</p> <p>③一方で、授業準備にこれまで以上の時間がかかったり、思ったように実施できなかった場面も多くあった。紙ベース等、従来の指導の重要性もまた確認でき、ICT の効果的な使用方法については、今後も継続して研究が必要である。</p> <p>9月上旬に就職希望者、10月上旬に進学希望者を対象に、全職員による面接指導を実施した。また、夏季休業中の2週間、課外授業を実施した。</p>	
----------------	---	---	--

<p><b>進路指導を教職員全体で取り組む体制づくり</b></p>	<p>面接指導や課外授業など、教職員全体で計画的に生徒の進路指導を行う。</p>	<p>職員会議や打合せの場、学年居室等において、日頃の生徒の様子などを情報共有した。こういった取り組みのもと、職員が共通認識を持ち、生徒指導にあたることができた。</p>	
<p><b>生徒指導における組織力向上</b></p>	<p>(1)生徒指導におけるチームワーク力の向上。  (2)特別指導, 頭髪服装, 交通マナー, 特別アルバイトなどの指導において情報共有し, 共通認識を持って生徒に対応する。  <b>【活動指標】</b>  (1)生徒指導, 学年団, 各分掌との情報共有の場を作る。  <b>【成果指標】</b>  (2)課題のある生徒への共通認識を持ち, 教職員全体の組織力の向上を成果指標とする。</p>		
<p><b>保健部の活動</b></p>	<p>(1)生徒の気持ちに寄り添い、望ましい学校生活を送れるように支援する。  (2)保健(新型コロナウイルス感染症対策)に関する情報提供と健康増進のための情報を発信する。  (3)健康診断と救急処置及び日常的な保健指導を行う。  (4)特別支援の必要な生徒の情報共有と支援活動を行う。  (5)心身の健康教育と、教育相談による心のケアを充実させる。  (6)校内の環境美化活動とごみの分別を徹底する。</p>	<p>(1)(5)心身の不調や悩みをかかえている生徒が多く、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーへとつなげることができた。  (2)毎日の検温を促し、自己の体調管理の大切さを伝えるため、保健(主に感染症予防)関連の情報の発信を行った。GoogleClassroomによるフォームを活用するため、朝のSHR時に入力促す放送を行った。  (3)日常の健康管理と負傷後の対処について理解を促すことができた。  (4)特別な支援を必要とした生徒に対し、現状に合わせた支援・情報の共有と提供を行い、外部機関や関係分掌と常に連携をと</p>	

<p><b>人権教育研修</b></p>	<p>(1)教職員の人権意識を高めるため、現職教育の開催や校外研修への積極的な参加を促進する。</p> <p>(2)様々な課題を持った生徒の情報を共有し、ケーススタディにおいて教職員の人権意識を高め、生徒に必要なサポートができる体制作りを行う。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(1)人権教育推進計画に根ざした現職教育の実施。</p> <p>(2)人権教育推進部と保健部とのタイアップによる生徒の情報共有会議の開催。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(1)現職教育の実施</p> <p>(2)情報共有会議の開催</p>	<p>り、支援活動を継続することができた。</p> <p>(6)感染症予防のため、関係各所に協力を得ながら、状況に合わせた環境美化を行うことができた。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(1)人権教育推進計画に基づいた現職教育の実施。</p> <p>(2)生徒の情報共有会議の開催。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(1)現職教育3回実施。</p> <p>(2)情報共有会議随時開催。</p>	
<p><b>学校図書館の情報提供</b></p>	<p>各教科との連携を密にし、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる、教育支援の充実に努める。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>図書館利用につながる案内とサービス(資料提供、レファレンスサービス)を行う。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>必要に応じた案内とサービス(随時)を行う。</p>	<p>教科担当者の相談に合わせて、図書館資料を活用した教育支援を随時行った。</p> <p>新聞社の記事データベースの無料トライアルを取り入れた。生徒・教員ともある程度の利用があった。</p>	
<p><b>情報提供</b></p>	<p>中学校の進路説明会に積極的に参加する。</p> <p>本校オープンスクール内容の充実をはかり、中学校側と情報交換がはかれるよう努める。</p> <p>在校生の取組をWebページやプレスリリースにより紹介する。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松阪市内の中学校進路指導担当との連絡会を新設する。</li> <li>・Webページ等を利用し、各教員が学期に1回以上発信をする。</li> </ul>	<p>・学校ホームページを通じて積極的に配信した。商業科に係わる配信回数では、2倍程度多く配信した。</p>	
<p><b>組織運営</b> (国際ビジネス科)</p>	<p>国際ビジネス科は、英語を中心とした一般教科と商業の双方を中心的に学習する学科であることから、英語科を中心に「英語の4技能5領域」の育成を目指し授業を展開しつつ、地域社会やグローバル社会で活躍できる人材の育成を目指す。</p> <p><b>【活動指標】</b></p>	<p>成果指標に基づく(1)では、簿記、情報処理、ビジネス基礎ともに実施した。</p> <p>(2)については、2学期よ</p>	

	<p>(1) 商業科目においてはすべてティームティーチングを実施する。</p> <p>(2) 国際ビジネス科の運営を円滑に行うための会議(国際ビジネス科委員会(仮称、関係者により構成)の設置を承認して頂き、会議を複数回実施する。</p> <p><b>【成果指標】</b>  <b>【活動指標(2)】</b>について、2回以上行う。</p>	<p>り定期的に開催し、成果指標を達成した。</p>	
<p><b>組織運営</b> (国際教養科)</p>	<p>国際教養科生徒の学力向上や進路実現に向けて、きめ細かな指導を行う。</p> <p><b>【活動指標】</b>  生徒の学力向上のための情報共有を行い、指導方法を検討する。</p> <p><b>【成果指標】</b>  (1) 学期に1度、国際教養科委員会等の情報共有会議を開催する。  (2) 生徒の学力向上や進路実現に向けて課外授業や個別指導を実施する。</p>	<p>(1) 今年度は、職員会議後に全職員による情報共有会議を年4回実施。5月30日、7月6日、12月14日、3月実施予定。  内容:支援の必要な生徒の情報共有(学習状況、検定結果、家庭状況等)  支援方法については、各教科・学年・分掌で関係する部署と検討し、支援した。  (2) 面接指導、小論文指導等を実施(3年生31名全生徒)・その他:企業訪問、就職実現コーディネーターとの連携等→第1志望就職【内定4名】第1志望進学【合格25名】2月10日現在  ※第1志望進学を目指し2月中に1名が受験予定。また体調不良の理由により1名が進学待機。</p>	
<p><b>ICT活用の強化</b></p>	<p>オンライン授業を継続的に行える環境整備に努める。</p> <p><b>【活動指標】</b>  (1) 学力補充のため、教科作成のコンテンツの配信を行う。  (2) ICT環境の整備をさらに進める。  (3) 教育アプリの活用(ロイロノート、スタディサプリ)</p> <p><b>【成果指標】</b>  (1) 各教科で授業コンテンツを制作し、配信する。  各HRのプロジェクタ、クロームブックの活用率の向上。  (2) 教育アプリ活用率の向上。</p>	<p>各教科でコンテンツの作成に取り組んだ。職員にも1人一台のChromebookを整備し、校務での利用を促進した。毎回職員会議等でChromebook使用し、教育アプリを職員が日常的に利用する環境を整備した。</p>	

## 改善課題

【国際教養科】すべての生徒の進路実現のために、基礎学力や学習習慣を十分に身につけていない生徒や外国籍生徒に対する支援体制（教科、学年、分掌、日本語教育担当者及びSSW等との連携）をさらに充実させて、きめ細やかな指導をしていく必要がある。

【図書】「主体的・対話的で深い学び」のためにも、図書館利用による学習は有効である。特に情報の質やデータの信頼性は高い。先生方に、より利用してもらいやすいように働きかけたい。新聞社の記事データベースの有料利用も、検討したい。

### 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	授業アンケートにおける質問項目の構成はよく考えられている。アンケート活用について成績評価と無関係という表記があるとよい。 就職後すぐの離職を避けるため、今後も生徒が就職後にミスマッチと感じない取組をお願いしたい。
---------------------	---

### 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	一人1台端末に活用できるような教材研究を、今後も継続して取り組む。 資格取得については、受験案内・対策講座の案内だけでなく、資格取得者の把握や受験指導を学科代表や授業担当者で行いながら取り組んでいく。
学校運営についての改善策	ICTのより効果的な活用については、今後も継続して研究が必要である。 基礎学力や学習習慣を十分に身につけていない生徒や外国籍生徒に対する支援体制をさらなる充実と、きめ細やかな指導が必要である。